

ニレハムシ

春～初秋にかけてニレ属やケヤキの葉を食べるイモムシ（幼虫）または甲虫（成虫）。幼虫は7月に出現，体長最大10mm前後。体は黄色で黒い斑紋が多数ある。尾端は吸盤状。イボ状の脚（腹脚）はない。成虫は春～秋に出現，体長7mm前後。本州では害虫として知られている。道内では普通にみられるが，これまで多発記録はないようである。



1. 幼虫，体長11mm。1991/7/12。新得町，ノニレ。 2. 成虫，体長6mm。1を飼育。

【学名】 *Pyrrhalta maculicollis*

【分類】 コウチュウ目（Coleoptera），ハムシ科（Chrysomelidae）

【分布】 北海道，本州，四国，九州；シベリア東部，朝鮮半島，中国北部。

【特徴】

よく似た昆虫にイタヤハムシとサンゴジュハムシがあるが，加害樹種が異なる。

【生態】

主にニレ属やケヤキに寄生するが，ガマズミ，サンゴジュ，ハンノキ類にもつくといわれている。

年1回発生。成虫で越冬。成虫は春に出現・産卵する。北海道では幼虫は7月にみられる。幼虫は地中で蛹化，10日ほどで成虫が羽化する。成虫は夏～初秋に葉を食害し，10月に越冬に入る。越冬場所は樹幹の粗皮下や落葉中である。

【被害】

本州などではしばしば多発し，木を著しく衰弱させることがあるといわれている。これには本州などでは年2回発生することが関係するかもしれない。北海道でもニレ類に普通にみられるが，多発した記録はない。

【文献】

1956. 中根猛彦監修。原色日本昆虫図鑑甲虫編，増補改訂版：1-274，pls 1-68。保育社，大阪。（分類，形態）

1963. 中根猛彦ほか. 原色日本昆虫大図鑑Ⅱ(甲虫篇): 1-18, 1-443, pls 1-192. 北隆館, 東京. (分類, 形態)
1977. 小林富士雄. 緑化樹木の病害虫(下) 害虫とその防除. 290p. 日本林業技術協会, 東京. (生態, 防除)
1977. 奥野孝夫ほか. 原色日本樹木病害虫図鑑: I-VIII, 1-365, pls 1-64. 保育社, 大阪. (生態, 防除)
1994. 木元新作, 滝沢春雄. 日本産ハムシ類幼虫・成虫分類図説. 539p. 東海大学出版会, 東京. (分類, 形態, 生態)
1994. 奥田素男. ニレハムシ. 小林富士雄, 竹谷昭彦, 編集, 森林昆虫, 総論・各論: 358. 養賢堂, 東京. (形態, 生態, 防除)

北海道立林業試験場・緑化樹センター

ニレハムシ hamusi/nirehamu/
kaisetu.htm

「文章」原秀穂, 北海道立林業試験場, 1993/1/7-2001/3/11.

1yochu.JPG, 1seichu.JPG

「写真1～2」原秀穂, 北海道立林業試験場, 1991.